



8日に行われたG8ワーキング・セッション

# 洞爺湖サミット結果報告

去る7月7日から9日まで北海道洞爺湖にて「G8北海道洞爺湖サミット」が開催されました。

主要テーマに『地球温暖化』を掲げ、  
環境・気候変動はもちろん、森林についても  
集中的に議論が行われたサミットの模様をレポートします。



9日に行なわれた主要経済国会合（MEM）

## 森林を巡る様々な問題に 大きな一歩を提示

G8サミットとは、日本・アメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・イタリア・カナダ・ロシアの各首脳及び、EUの委員長が参加して毎年開催される首脳会議です。三十四回目となる今年、豊かな自然が溢れる北海道洞爺湖に、G8のほか中国、インド、ブラジル、メキシコ、南アフリカ、オーストラリア、韓国、インドネシア、アフリカ主要国の首脳

が集まりました。日本が議長国となるのは四回目、二〇〇〇年の九州・沖縄サミット以来、八年ぶりのことです。

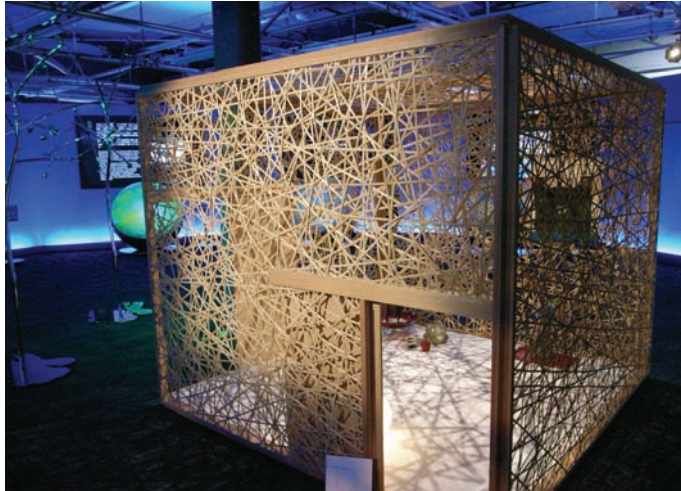
会期は、七月七日から九日までで、七日はアフリカ首脳との意見交換が行われ、翌八日のG8サミットでは「世界経済」「環境・気候変動」「開発・アフリカ」「政治問題」について、活発な議論が行われました。また、気候変動問題については、九日に、中国、インドなどの新興国も参加した主要経済国会合（MEM）で

さらに議論が行われました。これらの会合で採択された首脳宣言では、森林の減少や劣化に由来する排出の削減（REDD）、違法伐採および関連取引の抑制、森林火災対策の強化など、あらゆるレベルにおける森林に関連する国際的な取り組みと各国の協力的行動の必要性が謳われました。

八日にはG8首脳らによる記念植樹も実施。植樹には、成長過程で二酸化炭素を通常のものより最大で二十%多く吸収する「グリーンラッチ」という新品種のカラマツが使用されました。

また、今回のサミットでは、設備面においても環境に配慮した試みがなされていたことも特徴です。各国ジャーナリストの拠点となる国際メディアセンター（IMC）の建物や内装にはカラマツ間伐材を多用したほか、国土緑化推進機構からは、間伐材を原料にした割り箸が提供されました。

我が国のリーダーシップの下で開催された洞爺湖サミットは、環境問題に対する世界の関心を更に高め、問題解決に向けての大きな一歩を踏み出したと言えるでしょう。



上：G8 首脳らによる記念植樹（東京写真記者協会提供）  
中：メディアセンター内に設置された間伐材を利用したオブジェ  
下：メディアセンター内での様子